

全国学力・学習状況調査の活用に係る動画

校内研修における活用について



千葉県総合教育センター

校内研修を中心とした校内体制

校長・教頭

- 調査結果を活用した校内体制整備と外部との連携窓口

教務主任

- 文科省が提供する結果データの出力及び校内での周知（情報共有）
- 県の分析シートの作成準備（分析ツールから出力）
- 自校の結果概況について管理職へ報告

研究主任

- 校内研修の企画・運営（管理職・教務主任と連携）

全教職員

- 調査問題（教科）を確認（実際に解いてみるとよい）
- 文科省が提供する結果データから自校の結果（教科・質問紙）を確認
- 県の分析シートの作成（記入）により指導改善の方策を検討
- 指導改善案に基づく授業実践
- 実践の検証とさらなる改善プランの検討



学
校

報告・相談



指導・助言



市町村教育委員会

教育事務所

家庭（保護者）

地域社会

理解・協力



情報発信



※あくまでモデルであり、学校や地域の実態に応じた最適な体制整備が重要です。

校内研修の具体例

A 「調査問題の意図を知る」 (4月～)

(目的) 教科に関する問題を解き、職員が出題の意図を知る。

(流れ) ①国語又は算数(数学)の問題を全員が解いておく。

①「国語グループ」「算数(数学)グループ」に分かれて、児童生徒の誤答を予想し、指導上の留意点等について協議する(特に、中学校では、当該教科以外の方も参加することが大切です)。

②各グループの協議結果を全体で共有する。



校内研修の具体例

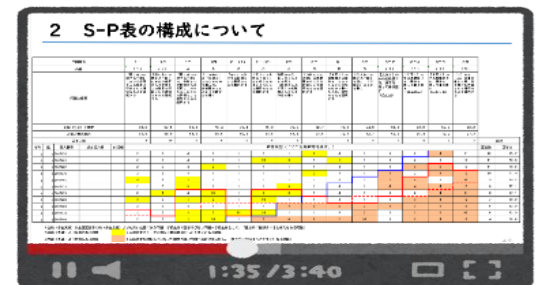
B 「文科省の調査結果データの見方を知る」 （5月～）

（目的） データの見方を知り、調査結果提供後、すぐに分析できるようにする。

（流れ） ① 県総合教育センターが配信する「全国学力・学習状況調査の活用に係る動画」を視聴する（URL等は市町村教育委員会を通じてお知らせしています）。

② 前年度の調査結果データをもとに、見方を確認し、分析のポイントを整理する。

※動画視聴は、全体でなく個人でも可能です。



校内研修の具体例

C 「県の『誤答分析シート』を作成する」（8月～）

（目的）児童生徒の誤答を分析し、改善方策を検討する。

（流れ）①教務主任・研究主任等が中心となり、文科省の調査結果データから、誤答分析に適切な設問を選定しておく。

①「国語グループ」「算数（数学）グループ」に分かれて、児童生徒の誤答を分析（どのような考えで誤答に至ったのか考察）し、その改善方策について協議する。

②各グループの協議結果を全体で共有し、学校全体としての分析と改善方策を記入して「誤答分析シート」を完成する。



校内研修の具体例

D 「県の『経年分析シート』を作成する」 (8月～)

(目的) 自校の結果について経年分析し、改善方策を検討する。

(流れ) ①教務主任・研究主任等が中心となり、教科に関する調査結果の経年変化から、成果と課題をまとめ、分析のポイントを整理しておく。



① 「国語グループ」「算数(数学)グループ」に分かれて、「どのような取組で成果があったのか」「どのような取組で課題を改善していくのか」について協議する。

②各グループの協議結果を全体で共有し、継続的な課題等に対する学校としての改善方策を記入して「経年分析シート」を完成する。



校内研修に役立つコンテンツ

文部科学省及び国立教育政策研究所が発行する関係資料等

○各教科「解説資料」

○各教科及び質問紙調査「報告書」



国立教育政策研究所のwebページでは、「解説資料」「報告書」のほか、説明会の資料等、関係する多くのデータが提供されています。

<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>



※文部科学省、国立教育政策研究所の資料等を参考に作成しています。

国立教育政策研究所 全国学力・学習状況調査

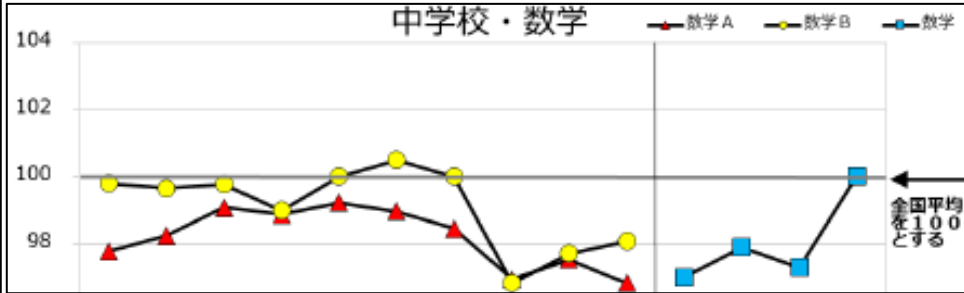
検索

校内研修に役立つコンテンツ

全国学力・学習状況調査活用の手引き（県総合教育センター発行）



○本県の結果（経年分析）



○各教科の課題に対する指導改善の方策

問題解決の過程を振り返って捉え、見いだした事柄を数学的に表現できるようにするには

本設問を用いた指導の工夫

具体的な数や文字式を用いて予想した事柄が成り立つかどうかを調べる活動を設定することが考えられる。計算結果が4の倍数になるためにはどうしたらよいか見通しをもち、それまでの問題解決の過程や結果を振り返って考察し表現する活動を設定することが考えられる。

$3n+4$ が $4n+4$ になれば、 $4(n+1)$ にできるから、 $4 \times (\text{整数})$ の形になるね。

$3n+4$ の4はたす数のことだね。この数は変えなくていいね。

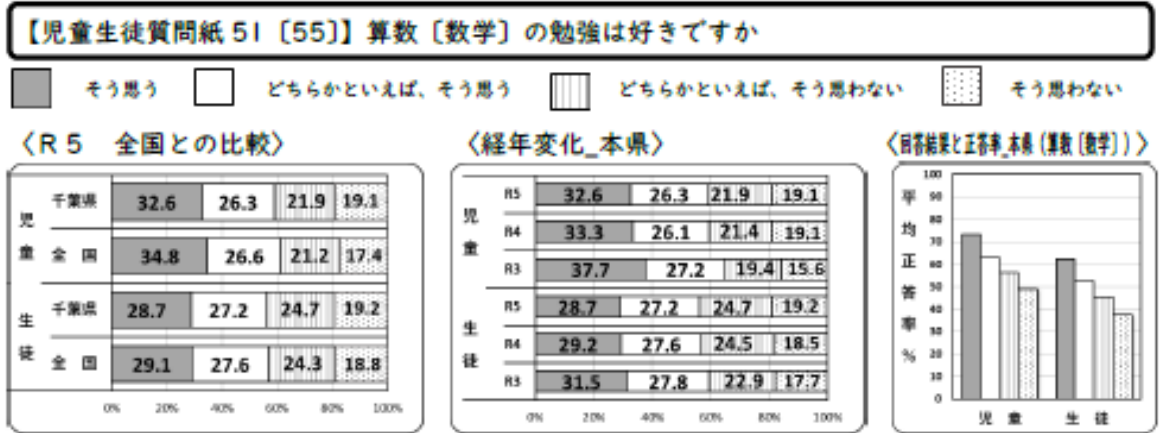
$3n+4$ の $3n$ を $4n$ に変えるためにはどうしたらいいかな。

$2n+(n+4)$ の $2n$ の部分を $3n$ に変えると、 $4n+4$ になるから、かける数2を3に変えればいいね。



※文部科学省、国立教育政策研究所の資料等を参考に作成しています。

○質問紙調査への回答結果分析



このほか、全国学力・学習状況調査の活用に関する情報をまとめていますので、ぜひご覧ください。

千葉県総合教育センターのWebページでダウンロードすることができます。

<https://www.ice.or.jp/nc/>

千葉県総合教育センター 全国学力・学習状況調査活用の手引き

検索



校内研修に役立つコンテンツ

「全国学力・学習状況調査」を活用した授業改善（県教育委員会webページより）
 ○授業実践アイデア例（授業全体や単元全体を見通した授業改善の具体例）

調査結果

全国学力学習状況調査の結果分析から

課題の見られた問題

設問 1-4
 ●領域 「A 話すこと・聞くこと」
 ●評価 思考・判断・表現

< 出題の趣旨 > 聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめる

調査結果	平均	本校	千葉県	全国	無回答率	本校	千葉県	全国
正答率	%	81.1%	82.5%		%	12.0%	10.8%	

●学習指導要領における内容
 (第1学年) 思考力、判断力、表現力等 A話すこと・聞くこと
 (1) ア 目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討すること。
 (第1学年) 思考力、判断力、表現力等 A話すこと・聞くこと
 (1) エ 必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめること。

課題
 聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめることができるかどうかを見る記述式問題であるが、全国平均に比べ、無回答率が高い。誤答の解答類型を分析すると、「自分の考えを書く」という条件を満たしていないものの割合が高く、「目的意識」をもって聞くことが課題である。

授業改善案

①実践モデルプログラムの過程に対応させて作成した「話すこと・聞くこと」の単元を作成する。
 ②今年度の「話すこと・聞くこと」の問題は、総合的な学習の時間と関連させた場面設定となっていたので、「教科等横断」「目的意識」「ICT活用」をキーワードに作成する。

見いだす -学習の見通しをもつ- ○教科等横断

第1時

総合的な学習の時間では、自分の将来やキャリア形成のために、様々な職業や働き方について調べ学習を行いました。今回の国語の学習では、皆さんが興味を持った仕事について、実際に働いている方にインタビューをして、働く上で大切なことを考えてみましょう。

○実際のインタビュー動画から、話者の思いや考えを引き出すインタビューをするためにはどのようなことに気を付ければよいかを考える。

授業改善のポイント
 指導事項を具現化したインタビュー映像を教材とすることで、生徒自身に「漢字としたインタビュー」ではなく、「聞き手としての問いやねらいのあるインタビュー」をすることが重要であることを実践的に捉えさせます。

○「どうやら相手の思いを引き出すインタビューができるかな？」
 事前に相手やその考えについて調べて質問をまとめておく必要がある。

自分で取り組む -相手を決め、質問内容を考える- ○目的意識

第2時

地域にある会社で電化製品を開発している方のメッセージが、企業ホームページに掲載されていました。この方にさらに詳しくお話を伺いたいです。

< 知りたいこと >
 ○「安全性だけでなく、デザイン性や利便性も大事にしたい」と考えるのはどうですか。→「詳しい理由」を知りたい!
 ○「安全性を保ちつつ、デザイン性や利便性も兼ね備えた製品を開発するのは難しい」とあるが、具体的にどのような難しさがあるのか。→「具体例」を知りたい!

授業改善のポイント
 インタビューを充実したものにするためには、事前学習を通して得た情報等を基に、「より詳しく知りたいこと」や「疑問に思うこと」を事前に考え、質問事項をメモにまとめることが大切です。

広げ深める -インタビューをする- ○目的意識 ○ICT活用

第3時

①毎日、課題の解決に頭を悩ませています。
 ②課題を解決するために、星野さんはどのようにしてアイデアを生み出しているのですか。私は美術部に所属しているのですが、よいアイデアが浮かばず、作品の制作が滞ってしまうことがあります。
 ③そういって、私は仲間と話し合うようにしています。

○タブレットの録音機能を活用し、インタビューの内容を記録として残す。
 ○さらに聞きたい話を引き出すために、相手の発言に自分の体験を関連付けて質問する。

授業改善のポイント
 聞き取ったことを基に自分の考えをまとめることができる力を育てることが大切です。そのためには、普段から「ただ聞く」のではなく、共通点や相違点などに着目して自分の考えをもつ学習活動を展開する必要があります。

星野さんのお話を伺い、自分とは異なる考えや見方を生かすことの大切さが分かりました。私も社会で働くときには、仲間と話し合うことを大切にしようと思いました。ありがとうございました。

まとめあげる -インタビュー内容を振り返り、学習を振り返る- ○目的意識 ○教科等横断 ○ICT活用

第4時

学習の振り返り（生徒の振り返り例）
 ・事前のメモを使って質問をすることができた。自分の体験とともに質問をしたら、想定していたよりも様々なお話を伺うことができた。
 ・インタビュー中に聞かされたところがあったので、事前のメモをさらに丁寧に作る必要があった。話を聞く力も必要だ。
 ・聞き返してみたら自分の考えが深まったので、総合的な学習の時間に生かしていきたい。

授業改善のポイント
 自身がどのように話したり聞いたりしているのかを実際の様子を基に振り返らせることが大切です。インタビューに関する資力・能力をメタ認知させ、次の学びへとつなげていきましょう。

インタビューを通して、働く方の思いを知ることができましたね。皆さんのインタビューをする方は向上しましたか？
 次は、この内容を総合的な学習の時間の学習に生かしていきたいです。

本単元では、「インタビューをする」という活動を通して「聞く能力」を育成することを目指しています。
 「聞く」という活動はともすると受動的なものになりがちですが、目的や意図を明確にもち、事前に聞くことを調べたりメモしたりする「主体的な聞き手」を育てる学習指導が大切です。（これはインタビューという言語活動に限ったことではありません。）
 このように、全国学力・学習状況調査では育成すべき資力・能力を明確化した授業場が調査問題になっています。他の調査問題についても単元づくりのヒントとなっていますので、ぜひ活用してみてください。

※そのまま活用できるアイデアを教科別に掲載しています。

<https://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/shidou/gakuryoku/bunseki-katuyou/bunseki-katuyou-jugyoukaizen/bunseki-katuyou-jugyoukaizen.html>



※文部科学省、国立教育政策研究所の資料等を参考に作成しています。

千葉県教育委員会 「全国学力・学習状況調査」を活用した授業実践

検索

校内研修に役立つコンテンツ

「全国学力・学習状況調査」を活用した授業改善（県教育委員会webページより）
 ○課題別実践アイデア例（課題となる部分に重点的に効果を発揮する具体例）

課題 【算数】二つの数量の関係（割合）について考察することが苦手

手立て 問題場面から、「基準量」「比較量」「割合」の関係を、自分にとって分かりやすい図をひいて数量の関係を探え、式を立てるよう指導する。

具体例

POINT① 割合として表される数量に関わる生活体験を豊かにする。

○「基準量」や「比較量」は変わっても、「割合」は変わらないことを確かめる。
 ・飲み物を実際に同等分けて、飲み物の量、果汁の量をそれぞれ求め、それらを使って果汁の割合を求めていく。
 ・生活体験の中で、ジュースを分けたときに味（濃さ）が変わらないのは、割合が変わらないことに気付く。

例) 果汁30%のジュース
 1200mL を4等分する
 1人分の果汁の量は？

600mL, 180mL, 30%
 300mL, 90mL, 30%

POINT② 「日常の具体的な場面」、「図や表」、「数と式」を相互に関連付けて、割合について理解できるようにする。

○果汁の割合について、自分にとって分かりやすい図をひいて、数量の関係を捉える。
 ・線分図、数直線、関係図、表などを使って、果汁の割合と飲み物の量、果汁の量の関係を探える。
 ・果汁40%とは、飲み物の量100mLだったら、果汁の量が40mLになるなど具体的な量に置き換えて考える。

POINT③ 割合を用いる際、比例の関係を前提にしていることを理解できるようにする。

○飲み物の量は、果汁の量に比例することに気付く。
 ・果汁の量と飲み物の量の表をつくり、果汁の量が2倍、3倍になると、飲み物の量も2倍、3倍になることを確認する。
 ・表から、(果汁の量) × (決まった数) = (飲み物の量) になることを確認する。

課題 【英語】自分の考えやその理由を書くことが苦手

手立て コミュニケーションにおける目的・場面・状況の設定と多様な表現の展開
 POINT① 目的・場面・状況設定の明確化
 POINT② コミュニケーションにおける背景理解
 POINT③ 書くこと・話すことにおける多様な伝え方の展開

具体例

POINT① 目的・場面・状況設定の明確化

○自分自身を表現する機会をつくりだす
 ・特定の言語材料を使って表現することを主目的にするのではなく、学習した言語材料を使って表現したり、理解したりする目的・場面・状況を明確に設定することで、実際に近いコミュニケーションを生み出すことができる。そして、それが学習意欲につながることを期待できる。

例) 現在完了が言語材料の単元

POINT② コミュニケーションにおける背景理解

○異文化や価値観に基づく違いの理解を学ぶ
 ・実際に近いコミュニケーションを生み出すためには、その国の言語文化を理解する必要がある。指導者がこれらを理解し、伝えていくことで学びに深まりが生まれる。
 ・右の例は、日本語（文化）に基づき解釈すると、混乱が生じる可能性があることを示している。

例) 否定疑問文への返答

POINT③ 書くこと・話すことにおける多様な伝え方の理解

○異文化に即した適切な表現を学ぶ
 ・同じテーマや、同じ内容を表現する際、手段（やり取り・発表・書く）や場面（フォーマルな場・カジュアルな場）、目的（交流や面接など）によって伝え方は変わってくる。これを理解することによって、多様な表現を習得することができるようになる。

例) 中学校での思い出を伝える

課題 【理科】実験結果を分析して、解釈し、表現する力が弱い

手立て 実験結果を根拠として表現できるようにする

具体例

POINT① 事実（結果）と解釈（考え）の両方を入れた考えを書くことを勧告する。

○事実（結果）と解釈をノートに付けて書く。
 ・タブレット等で表やグラフに基盤することで、グラフ作成の時間短縮ができ、定量的に捉えられる。
 ・事実（結果）を知って、解釈（考え）を書く。一事実と解釈の両方を表現することで、よりの確かな考えをつくり出すことができる。

例 ※事実＝表 解釈＝言
 燃える側の割合は21%で、二酸化炭素の割合は17%で、二酸化炭素が3%になっている。だから、おのが燃える。おのの一部が燃えられて、二酸化炭素が増えると思うよ。

POINT② 他者の説明と自分の考えを比較する活動を取り入れる。

○他で考えを共有する機会を設定する。
 ・自分の考えとの共通点、差異点を見つける。
 ・他者の説明を聞いて、実験結果を根拠としているか確かめる。
 ・一具体的数値などを用いて考えを伝えあうことで、より妥当な考えをつくり出すことができる。

例 ※この表を
 各組の実験結果を一覧にする。（黒板、タブレット）
 「各組の結果をまとめると、どんなことが言えるか？」という、教師の問い返して視点を明確にする。
 一複数の実験結果を分析し、解釈することで、より妥当な考えをつくり出すことができる。

明らかに異なる結果が一目でわかる

※そのまま活用できるアイデアを教科別に掲載しています。

<https://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/shidou/gakuryoku/bunseki-katuyou/bunseki-katuyou-jugyoukaizen/bunseki-katuyou-jugyoukaizen.html>



※文部科学省、国立教育政策研究所の資料等を参考に作成しています。

千葉県教育委員会 「全国学力・学習状況調査」を活用した授業実践

検索

校内研修に役立つコンテンツ

「全国学力・学習状況調査」の問題・結果データの活用（県教育委員会webページより）
 ○千葉県学力向上通信「COMPASS」

令和5年度千葉県学力向上通信 vol.1

COMPASS

令和5年度全国学力・学習状況調査の特徴は？

4月18日に、全国学力・学習状況調査が行われました。7月下旬に調査結果等が返却される予定です。今年度はどのような調査が行われたのか、見ていきましょう！

令和5年度全国学力・学習状況調査の概要

- 目的
 - 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検査し、その改善を図る。
 - 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
 - そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 実施日 令和5年4月18日(火)
- 調査内容
 - ① 教科に関する調査
 - 小学校 国語、算数
 - 中学校 国語、数学、英語
 - ② 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
 - 児童生徒に対する調査

「1. 目的」は、例年と同じですね！
 「3. 調査内容」は、昨年度から何か変わっていますか？

はい！
 今年度は、中学校で4年ぶりに「英語」の調査が行われました。中学校英語は平成31年度以来、2回目の調査実施でした。

英語の調査は、4技能（「聞くこと」「読むこと」「書くこと」「話すこと」）に関する問題が出題されました。そのうち「話すこと」の調査は、1人1台端末等を用いて、MEXCBTを活用したオンライン形式により実施されました。調査のイメージは下の図のとおりです。学校のネットワーク環境等を考慮して、4月18日から5月26日までの期間に実施日を分散して実施されたのです！

音声データが正常に登録されたか、その場で教師・生徒が確認可能。ネットワークや端末のトラブル等により、1回目で正常に全ての音声データが登録されていない場合も、再実施すれば、採点結果を返却できる。採点は文科省が委託した業者が行う。

MEXCBT

問題の再生し、音声で生徒が解答

問題の送信

音声データ

令和5年度千葉県学力向上通信 vol.4

COMPASS

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果を分析し、活用しましょう！！

教科に関する調査（平均正答率）

小学校	全国	千葉県	自校	中学校	全国	千葉県	自校
国語	67.2%	67%	%	国語	69.8%	69%	%
算数	62.5%	62%	%	数学	51.0%	51%	%
				英語	45.6%	46%	%

千葉県を含む公立学校の結果です。中学校英語は「話すこと」以外の結果です。

全国と千葉県を比較すると同等の状況です。まず、先生方が、自校の実態を把握することが大切です！ 自校の結果を、上の表に記入していきましょう。

【千葉県の平均正答率の推移】

■グラフは全国平均との差を示しています。

小学校

小学校の傾向は、国語は安定、算数は前期低く後期高くなる傾向が見られます。

中学校

中学校の傾向は、国語と数学は安定、英語は前期低く後期高くなる傾向が見られます。

生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

○学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。【児童質問紙36・生徒質問紙40】

当てるまる □ どちらかといえば、当てはまる

学年	国語	算数	英語	平均
R5	37.1	44.9	36.4	37.7
R4	34.0	43.4	35.2	35.7
R3	37.7	42.4	34.8	37.4
R2	37.2	45.9	36.0	37.4
R1	34.1	46.6	35.1	35.4

千葉県の肯定的回答の割合が、昨年度と比較すると小学校・中学校ともにそれぞれ増加しています。今後も主体的・対話的で深い学びの観点からの授業改善に取り組んでいきましょう。

令和5年度千葉県学力向上通信 vol.6 算数・数学科号

COMPASS

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果を分析し、活用しましょう！！

小学校算数編 授業改善のポイント！

詳細な単元の流れ等は、HPにアップしていますので、是非御活用ください！
 ※詳細はこちら または二次元コードで御覧ください→

算数4 (3) 示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述すること。(55歳層・学習状況調査問題)

はい！「0日」に着目すると、次のような傾向があります。●年生のグラフでは「0日」の人数が■番目に多く、●年生と▲年生を合わせたグラフでは「0日」の人数が■番目に多いです。★授業時の発問や予想される児童の反応など、詳細は授業実践メディア動画を御覧ください。

千葉県の児童は半数程度が正答しています。さらに定着を図るには、どのような手立てが必要でしょうか？

学年	正答率
自校	%
千葉県	55.0%
全国	56.2%

問題文中の下線①または②の一方だけを正しく記述し、他方を記述できていない千葉県の児童は8.3%（全国8.4%）でした。児童の実態に応じて、問われていることは何か（=どのように答えるか）の発問をもたせましょう。学習指導にあたっては、児童自らが

目的に応じて分類整理された複数のグラフを比べ、見だしたことを表現できるようにすることが重要です。

「0日」に着目すると、●年生のグラフでは「0日」の人数が■番目に多く、●年生と▲年生を合わせたグラフでは「0日」の人数が■番目に多いです。

小学校学習指導要領（H29告示）算数科【第3学年】D データの活用
 ① データの分析に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
 (ア) データを整理する観点に着目し、身の回りの事象について表やグラフを用いて考察して、見だしたことを表現すること。

★授業時の発問や予想される児童の反応など、詳細は授業実践メディア動画を御覧ください。

※調査結果を活用した取組等の情報を多く提供しています。

<https://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/shidou/gakuryoku/bunseki-katuyou/bunseki-katuyou2020.html>



※文部科学省、国立教育政策研究所の資料等を参考に作成しています。

千葉県教育委員会 「全国学力・学習状況調査」の問題・結果データの活用

検索

全国学力・学習状況調査の活用に係る動画

校内研修における活用について



千葉県総合教育センター